島の基幹産業であるサトウキビの収穫量が低い理由を伺う / 津田隆

■ 2番 津田隆議員 伊平屋村におけるサトウキビの収穫量についてお伺いします。伊平屋村、サトウキビ、22年間の平均反収3.5トン。この前、サトウキビの時にデータを渡されて見たんだけど、3.5ぐらいかなと。これで専属農家が生活できる適切な数値ですか。教えてください。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 先に資料を配布していいですか。

■議長（金城信光） 休憩します。

再開します。津田議員、もう一度質問をお願いします。

■ 2番 津田隆議員 島の基幹産業であるサトウキビ収量が低い理由を伺います。近隣市町村のキビ作反収8トンに対し、伊平屋村キビ作の反収は3.5トンです。収穫量が他市町村と比較して著しく低い理由を教えてください。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員の質疑にお答えします。今、お手元に配られている『令和4年度5年期サトウキビ作型生産実績』と今の『優良事例報告書』っていうのを皆さんのお手元にお配りしています。まず、別紙1のサトウキビ作型生産実績を見てみます。赤いラインで囲んでいるところが伊平屋村となっています。これを見てみると、10アール当たりの収量を見ていただくと、決して北部とそこまでの差はないというのが現状として分かるかと思えます。これは何を意味しているかと言いますと、国頭マージの土壌がやはり影響していることは間違いないかと思っていますんですけど、それを踏まえてお答えしたいと思っています。本村及び本島北部の土壌が国頭マージの地域は、肥沃度が低いこと、作度深が浅く、生育や生産性に影響を与えていると考えていますが、適正な耕運、整地、種撒き、灌漑、配水、施肥、農薬散布、除草と、いわゆる肥培管理ですね、それらをすることで反収を向上させることは各地域で実証済みであるというふうに思っています。それがこの優良事例報告書を見てみると、そういった努力をされている農家はちゃんとした結果が出ているというのが実状として示されているかと考えています。

ただ、現在、伊平屋村では堆肥づくりも、国頭マージということで土壌が思わしくない部分もありますので、堆肥づくりを行っていますが、原材料及び適正な時期での堆肥の確保が困難時期にあります。その状況を踏まえて、今年度に伊平屋村土壌診断調査を実施しているところです。伊平屋村と土層改良マスタープラン策定委員会を設置し、令和8年度に新規採択事業として土層改良事業の採択に向けて、調整しているところです。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■ 2番 津田隆議員 今の資料は見てないんだけど、僕が農協からもらったグラフでは、やっぱり干ばつした時期には、作が低くなったりで、何年かな、グラフ持ってきてないんだけど、その中にはやっぱり水が不足して、僕らの水道からもやって、堆肥のことも見たんだけど、絶対数本当に足りていないと思うんだけど、僕の感覚では、本当に足りているのかどうか。

土壌づくりがあまりされてないと、農家さんに聞くと、堆肥をほとんど使ってないと。化学肥料のみでやっている。それを追求すると、やっぱり土壌にいろいろな

結果が出てきて、やっぱり保水力もない、そういう結果も僕は出ると。いろんなところから電話なりで聞くと、やっぱり8トンとか9トンとか上がって、比較すると、伊平屋は雨が降った時期というのは、かなり生産量が6,000トンとかサトウキビもあって、街に近いところは、やっぱり野菜とかそういうのにやっているから、その灌漑事業だったり、水についてそんなに力入れてないかも分らんけども、伊江島さんと伊是名村さんしか見てないけど、伊江島さんはもう水に対しても、もうとんでもないぐらい進んでいる、堆肥に対しても。で、やっぱりそれだけ伸ばしている。

だからここに対応して、じゃあもう一度それに関係することを聞きたい。多種多様な農家の発展について、継続して聞きたいんですけど、「農業の存続を可能に」を理想に掲げたインフラ整備ですよ。なぜ農業をする若者がいないのか。また、多種多様な農業が伊平屋には育たないのか、教えてください。

■議長（金城信光） 津田議員、何を教えてくださいと。

休憩します。

■伊礼直樹農林水産課長（追加資料を配付）

■2番 津田隆議員 これから見ても反収は出ていますよね。違いはね。

■伊礼直樹農林水産課長 これ見ると国頭地区はだいたい似ていて、国頭マージはだいたい同じような反収。伊江島は島尻マージなので、南部地区に近い。土壤がもともと優れているということがあります。またさらに、堆肥とかそういった有機的なものもやっているところが反収上がっているのかと思います。

■議長（金城信光） 再開いたします。津田議員。

■2番 津田隆議員 僕は、絶対そうではないと思っているふしもあるんで。農家さんに、けっこう長いこと堆肥のことから聞いたりして、農家さんと話していく中で感じたことは、今さっき言ったように、多種多様な農業があまり育ってない。ほとんど野菜とかもないし、タマネギは1点あるのかな。そういう感じでなんで伸びていかないのかっていうのは、そういったものにあるんだけど、農家の皆さんと話していて気付いたことは、村民や農家間で行政関連団体の信頼性があまりなかった。愚痴しか聞こえてこなかった。経済的なところでいくと、農業が主要な産業である村にとって、インフラの機能不全は直接的な損失、農家の収入が大きく減少するんじゃないかなと感じました。社会的なことなんだけど、要請が受け入れられないことで、農家と行政、JA間の地域社会の一体感がないのではないかな。長期的な視点で見た場合、持続可能な農業、地域の発展を難しくしているんじゃないかなと、その4点は強く感じました。

マージだけで本当に出せるのかなと思ったら、そうじゃなくて、向こうは向こうのいろいろあって。このへんも調べないと分からないけど、他の農業に力を入れているか分からないし、けどやっぱり、今伊平屋ではサトウキビが主幹で、収入がそれだけ。米もね、今、ライスセンターの問題とかいろいろあってか知らんけど、かなり低くなっているし、そのあとに続くものは何かといたら、いろんな農業が、よそはキビだけじゃなくていろんな農業もやりながらやっているんだけど、伊平屋でやっぱりそれが見うけられない。

またこれも堆肥とかといろいろ、土壌管理のものが繋がっていくんじゃないかと私は考えているんですけども、そこらへんは見てどうですか。今、言ったように、

やっぱりその収入ではおそらく生活していけるのかなという不安もあります。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員の質疑にお答えします。議員のおっしゃるとおり、やはり農家と行政で一緒に取り組んでいかないと、その問題は解決できないかと思っていますので、今年度、まず始めに伊平屋村の土壌の実態を知るといふか分析して、どういった農業が合っているか等も含めて、この本村の土づくり対策基本指針というのを3年かけて作成していきたいと考えています。それを基本としてですね、どういった農業が適切なのかも検討できればと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 農家さんといろいろ話していて、もうかなり長い基幹産業の反収低迷で、収入がなかなかない中で、今また肥料も上がったりしている中で、投資もできない。サトウキビ作るのにお金はかかるんだけど、管理ができない。化学肥料の追加。水もやっぱり、一番多かったのが水でしたね。水、与える時に水が届かない。それが一番、農家さんと話して、一番感じたこと。けっこう酷い言葉も飛んでいましたよ。「こーせーしっていれー」とか。灌漑工事もいっぱいしているかも分らんけども、実際的には必要な分が届かないっていうのは1年で調べて行って話した結果だと思うんですけども。

そんな長いこと収入がないってことは生活が苦しいわけですよ。僕は農家さんと膝を交えて聞き出して、化学肥料と水を2年ぐらい無償で提供するように要請してみたらどうかなと考えているわけなんです。そのぐらい今危機感きているんですよ、実際。これ1年、2年だったらまだいいんだけど、やっぱり長年のあいだには農家さんの体力が絶対落ちてきて、危機的なところにきているんじゃないかなと感じるんです。並行して堆肥づくりだとか土壌づくりだとか、プロジェクト立ち上げてでもスピードを上げないと、立ち直れないところにいるんじゃないかなと私は感じますが、課長、どうなんですか。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員の質疑にお答えします。確かにですね、前年度まで北部灌排事業がまだ供用開始となっていませんでした。今年度供用開始予定となっていて、今まで水の供給に対してはたいへん農家にはご迷惑をかけてはいますが、今年度から蛇口をひねれば出せるような状況になっていますので、環境はだいぶ変わってくるかと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 これをスピード上げてぜひやってもらいたいと思います。やっぱり農家さんに聞くけど、誰一人として裕福というか、本当にどん底の中でやっている感じは受けます。会ってみてよく分かります。それでこれについても、堆肥づくりのあれで、JAさんの製糖工場、旧工場跡にサトウキビ破砕する機械があって、それをいろいろ調べたら、やっぱり破砕機もあるしハンマーもあるし、絞るのもあるし、これで草木を破砕して堆肥にして、ペレットを作れば早いなと思ったりしています。

支店長に聞いたなら、採用するのはいいことじゃないのかなと言われたんで、それもやっぱり検討しながら、で、またさらに詰めていったら、その破砕したあれでいろいろ使える、堆肥に使えたり、処理場に使えたり、すぐ機能がもっているんで、

ゴミ処理場も、今言った、使えるし、だからそういうのも活かしながら、なんとかプロジェクト作って早くやってほしい。

それから、破碎したものを圧縮かけて草木の水分を除けば、菌床がいっぱい作れば、そういったメリットもいろいろ含んでいるんで、またそのへんも検討しながら頑張っていけたらなと思いますが、またそれを検討してもらえますか。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員の質疑にお答えします。せっかくある機械でありますので、それがランニングコストも含めて適正なものかというのをまず検討して、確認しながら進めていきたいと思います。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■2番 津田隆議員 できたら早く実行できるように頑張ってくださいと思います。質問を終わります。